

# 元祖 モリモリ書店

令和2年度 愛知教育大学附属岡崎中学校 読書だより

みんなのうたで、OAUの  
せいのせいのまに流れてい  
よ感じ。

第19話 R02.06.16(火)  
「自分らしく生きることは  
簡単ではないけれど。」

★今回、紹介する本は、『ビリー・アイリッシュのすべて』（著/チャールズ・コンウェイ、訳/芝瑞紀、酒井章文、山本萌、出版/大和書房）。

2019年のグラミー賞で、史上最年少で5冠を達成したアーティストである「ビリー・アイリッシュ」の現在に至るまでの生活が描かれた本（附中生は、どれくらいビリー・アイリッシュを知っているかはわかりませんが…）。

昨年出した「bud guy」という曲は、2019年世界で最も売れたシングルとも言われているし、今、世界中でもてはやされている彼女ですが、華やかさとは別の世界に生きていることがわかります。

極貧の子ども時代、分離不安障害、異食症、共感覚、トゥレット症候群、友だちのいない孤独な日々など、いわゆる「普通」とは違う環境の中、自分が興味あることで自分を表現していく姿がよく伝わってきます。多様性そのものといえる生き方にふれて、今なぜ売れるのか考えてみるのもよいでしょう。



図もたくさんあって、気軽によめますよ。

「いつも自信がなかった。うまく話せなかったし、みんなと同じようにできなかった。」 (P.85)

「みんなが自分を気に入っても気に入らなくても、どっちでもいい。」 (P.167)

「あたりまえ」をゆがらせてやるのが好き。自分と違うものをあたりまえに受け入れるのが好き。

ドラマでも決めたよ。bud guy。

